昭和廿一年六月一日 第三種郵便物認可　昭和二十一年八月十八日　夕刊　いわき民報　(日曜日)　第百號　(一)

いわき民報

發行所 いわき民報社
平市田町一番地(電話三八一番)
編輯發行兼印刷人 千輝克己
日刊 但月曜日を除く
定價 一ヶ月五円 一部二十錢

開店
召上り物は精選
店内は氣分本位
さくら家花店
喫茶部
平警察署通り　平紺角

偉大なる漁業王國
石城出身の逸材小澤專七郎氏
一億五千萬圓で航空基地改裝

上遠野村出身の小澤專七郎氏は勿來町關田海岸に日産十噸といふ冷凍製鹽工場建設中で地方民から大いに期待をかけられてゐるが、今度は戰時中の房總地區の一大航空基地であつた舘山航空隊の要地四十五萬坪と建造物一万坪と併せ全施設を活用、一億五千萬圓の巨資を投じて漁業から製氷冷凍、製鹽、水産、農産食糧加工等々綜合的な一大漁業基地たらしむべく漁農會社(假稱)創立に東奔西走席溫るいとまなく、當分歸鄕しない模樣である、この計畫が實現すると本邦漁業界に一エポツクを劃し急迫した食糧問題も相當緩和されるものと大きい期待を寄せられてゐる

先づ遠洋漁船五隻建造
將來は觀光事業をも經營

舘山航空基地を漁港として更正せしむるこの計畫は、小澤氏の經營する日本食糧株式會社が戰時中から戰後の今日に於ても、本邦の食糧危機緩和に大きい役割を果して居り、小澤氏の非凡な手腕と熱意を見込んだ舘山漁業會が懇請して同氏の蹶起を促し、全面的に協力することになつて今日の運びに至つたものである、將來は漁業關係と併行して不動産部門も設け、風光明媚な市街近部の產地帶を包含する觀光事業も行ひ、文化住宅建設ホテル經營、舗裝道路の擴充など遊覽外客誘致にも力を盡すことになつてゐる

漁業部門は第一期計畫として取敢へず南方漁場に進出する二百噸級遠洋漁船五隻、其の他近海漁業船二十余隻を以て多角的な漁業に着手する

航空隊の建物は格納庫を始めすべて鐵筋で造られてゐるが、これを綜合工場に改裝、冷凍氷を日産一千噸、擴同三十噸、罐詰同二千箱、アミノ醬油年産三萬三千石、冷凍漁日産三十噸生産し、其の他肥料、醫藥品、食油精製から魚類の培干燻製品、蔬菜類の鹽藏まですべて全國一の生産目標を樹てゐる

舘山―東京 二時間半
スピードアップ計畫

陸上施設としては隣の島から船着き突堤を延長し、水上機格納庫護岸を水揚市場に改裝し、六十噸のクレーン及び水揚げ專用レールを施設、百四十萬ガロンの給油裝置、大貯水池に依る給水施設などはそのまゝ轉用出來る、全工程の完成するのは三ヶ年後と見られるが、一般漁業は勿論水産食料加工關係なども既存のボイラー利用原料入手次第着手し、漸進的に擴張することになるらしい

漁農公社(假稱)と併行し、舘山市と漁業會が中心となつて縣外遠洋近海漁船誘致策として生産餌料確保、漁船修理施設、漁夫の宿泊慰安施設、魚市場輸送設備の改善計畫も進め、快速船に依つて舘山―東京間を僅か二時間半でビスードアップする計畫も考へられてゐる

日産卅トン
製鹽は東洋一

日産三十噸の冷凍製鹽からは毎日一千噸宛の製氷されることになるが、この製鹽機は百五十馬力の電力裝置を十八臺備へる東洋一の裝備で、遲くも明春三月には完成する豫定である

町民感謝の的
菅野巡査夫人

四倉町警察部補派出所菅野忠幸巡査(三〇)は好間駐在所勤務中に應召、去る六月二十四日歸還と共に四倉勤務となつた、住宅難のため全派出所の刑事部屋に假住いしてゐるが、妻女千枝子さんは派出所へ客人その他願ひ出に來るもの等に何等の差別なく優しく應接、湯茶の接待も行ひ、これこそ民主化警察の感激の的となつてゐる同夫人は夫の應召中も好間村で夫にかはり村民の面倒を見模範とされてゐたものとある

平局年金に金字塔
簡保も割當を五百件も突破

平局では吉河局長を陣頭に全從勤保員を動員、郵便年金及び保險目標額達成に努力を注いでゐたが、市の協力に依り十五日現在で年金は割當十五萬九千二百圓を四十八萬圓を凌駕した六十三萬七千圓と云ふ金字塔を打樹てた

保險は割當二千五十件を五百件突破、この金額五千二百五十三圓に達してゐる、尚今後も年金に主力を注ぎ百萬圓突破を目指して頑張る

七丁目青年 役員決定
會長に河田稔氏

新生七丁目青年會の役員は左の如く十三日夜正式に決定をみた▼會長河田稔▼副會長草野孝夫、飯澤キヨ子▼幹事丹野孝一、松本福壽、小泉光正、高橋茂、力丸榮子、鈴木トミ子、三輪美智子、宇田川アヤ子、河田マサ子▼會計谷川賢次、服部三郎、高橋スミ子▼班長岩田治、生天目今朝吉、伊正二、佐藤正三、小野寺幸雄、林當仁、飯澤武、大河原丑男、宮崎ツネ子、藤田マキ子、御井美津子、武藤ヨシ子、佐藤榮子、正木キヨ子、伊藤文子、松崎キヨ子

防疫本部陣容成る

既報、赤痢豫防對策機構として濱通り三地區に分けられた防疫本部の內、平地區防疫本部の陣容は十三日左記に決定した、尚藥劑師、醫師を主力とする防疫班は人選中とある

本部長 齋沼平保健所長、副部長 大森醫師會理事長、關内藥劑師會理事長、大竹平署長、植田署長、本部付田口保健所技手(主任)、米永事務官、足立藥劑師會理事、木村醫師會理事、兒玉平署衛生係、菅波植田署衛生係、佐藤地方事務所主事補、四家石城郡保健婦研究會長、尚十五日には管内保健婦全員、十六日には郡内各町村の衛生主任を召集防疫の徹底を期した

罰金十二萬五千圓
揚蒲鉾の闇等に痛いお灸

江名町字江名海産物加工農作山茂七(五七)は揚蒲鉾四百八十五貫を二萬千九百三十圓の不法超過で賣却、三百十一條に觸れ罰金十二萬五千圓、また平市長橋町三十九片岡德十郎(五〇)は飴菓子十貫五百匁を三千四百三圓七十錢の不法超過で一万五千圓同所居清水トクヱ(三七)も飴十四貫五百二十匁を公定價より四千七百十二圓七十四錢の不當利得で罰金一万圓に何れもこの程平區裁で

湯本町の失業
對策委員決定

湯本町では町内の失業者救濟對策として土木工事を起すこととなり、去る十三日土木協議會を開いたので、この結果に基いて委員を擧げて具体的計劃の樹立を急ぐことに決し、委員に左の五町議を選した
比佐源造、小野英三郎、小糸廣松、大橋正、鯨岡正治、

郡全町村へ 赤信號を
平署で赤痢禍へ

赤痢禍に見舞はれた草野村下神谷宿部落一帶は飲料の便惡ぐ平署、平保健所、村役場等關係方面擧げてこれが防疫に躍起となつて居るが、平署では益々猖獗を極める傾向にあるため續發の撲滅、連絡防疫に萬全を期す一方管下全町村へも赤信號を發した一方、防疫班は有數患者の早期發見をはじめ檢病的戶口調査患者の隔離消毒の万全を期してゐる

節婦飯塚みよさん
小名濱町長から表彰内定

小名濱町字上町小名濱造船女工飯塚みよさん(三五)は去る十四年支那事變に夫利雄君の未亡人で夫を失つて以來姑きみ(六三)長女千代(一〇)を抱いて大平製板工場の女工や造船所の製板部につとめ屆り、この間姑の再三の再婚の勸めも隣組や町內會方面委員等の軍事扶助給與もとはり敢闘してゐるので、町の節婦として讃へられてゐるが今度赤賀町長の知る處となり表彰しその苦闘に酬ゆる事になつた

桃の供出督勵

名産〃石城桃〃の生產は四千貫を越へてゐるが、供出成績は割當二千二百貫に對し十四日現在で八百余貫といつた不振さに農業會郡支部では然明の十七日から一齊に赤井、小川、大野、平窪の各生產地の督勵に乘出し、本月中に完遂せしめる計劃でゐる

草野の赤痢猖獗
遂に罹病者四十四名に達す

草野村の集團赤痢は依然猖獗を極め、十日朝にいたつて稗村アキ子さん(二〇)が發病、當局の防疫陣を尻目に十六日夕刻までに新患者十九名が發生、總患者四十四名うち死亡三名となつた同村下神谷字宿部落は戶數四十戶、人口二百六十名でうち四十四名が罹病、當局の防疫が不完全なため益々猖獗する模樣である、その新患者名左の通り

稗村アキ子(二〇)、坂本久道(二二)、坂本淸子(八)、中島多一(二六)、猪狩昭子(二〇)、中島義明(二九)、猪狩公子(一二)、猪狩宣雄(一四)、猪狩弘(二二)、坂本トキ(二二)、同トミ子(三)、大平ミチノ(四二)、長谷部巳代藏(五四)、坂本カネヨ(六一)、渡邊正一(一〇)、同元六(一三)、上田露美子(四)、坂本正司(五)、猪狩ヤエ(三九)

赤痢 湯本町榮田今田紀美子ちやん(七ツ)は十三日赤痢と決定

湯本に眠り病

湯本町雜貨商渡部荷作(六二)は十七日嗜眠性腦炎と決定

磐中第三十一回卒業生に告ぐ

八月三十一日(土)第三十一回卒業生クラス會開催に就き二十五日(日)迄に左記へ出缺御通知相成度し、尚ほ時刻、會場は決定次第通知す

田町いわき民報社内　高野吉男
田町驛前小野屋藥局　小野弘

いわき寸言

▼平局年金に金字塔を建つ、五百圓生活の深刻化のさ中にこの業積は偉なる哉、局員の努力の賜であり又金の偏在をも物語るものか▼湯本町にネムリ病發生、御用心を▼揚蒲鉾の闇に十二萬五千圓の罰金、不當利得二萬千九百余圓とあるから正に六倍余となる痛いお灸ながらこれも因果應報▼草野村の集團赤痢いよいよ猖獗四十四名に達す恐るべき哉一人の不注意で世間にこの迷惑をかく心すべき哉

開業
診療科
内科
小兒科
性病科
矢吹醫院
鍛冶町(舊白土醫院跡)
矢吹太一郎
電八二八番

工員募集
穴明工
取付工
製罐工
瓦斯切斷工
二十名
◇但し現場出張工事
平市禰宜町一
程塚鐵工所
所長 程塚公

平市昨今の人口動態

配給面を中心として見る

縣內四市の中で最も被害の多かつた平市の復興は資材難やら、資金關係で一向に捗らない實狀にあるが、三分の一を焦土と化した平市の復興の原動力の一つたる人的資源は如何に動いて居るか、「市とは名ばかりで二萬や三万の人口では大平市の發展は到底望み得ない」とは地元市民の慨きの種となつてゐるが敗戰滿一年後の平市の人口を見るに毎月平均二百人からの增加は復員者、引揚者が大部分を占めるとは云へ常磐炭出の中心地として空襲の對象となつた平市を涙の中に去つて行つた地方への疎開者の轉入數も見逃し得ない、時代の流れは若き青年子女に産兒制限や人口流産の話題を投げかけて居るが、是非は別として大平市の發展と云ふ見地から見た市の現狀と人口の自然增加は興味ある問題であらう、以下市の配給面から見た大平市の人口動態である

四月來千六百名增加

引揚げ完了ご食事情等から

先づ何處に住むにも必要な轉出轉入の面から見ると

四月（轉入）縣外三四三名、外國（朝鮮、滿洲其他）五二名、縣內六三八名、出生二六名、（轉出）縣外二九四名、縣內三二六名、外國四名、死亡二八名、が地主移動其の他差引き五四八名增加

▼五月（轉入）縣外二四七名、縣內四一六名、外國一五名、出生四五名、（轉出）縣外二八五名、縣內三六〇名、外國無、死亡一二名、地主移動其の他差引三二一名增加

▼六月（轉入）縣外二八八名、縣內三〇六名、外國二六三名、出生三六名、（轉出）縣外一九九名、縣內二六八名外國無、死亡二七名、地主移動其の他差引三八六名の增加

▼七月（轉入）縣外三一七名、縣內二三六名、外國二〇六名、出生四二名、（轉出）縣外三一四名、縣內一四九名、外國無、死亡二三名、地主移動其の他で三六九名の增加

以上の四ヶ月の集計で一六三四名の增加を見てゐるが五月中に於ける縣內の六三八名に對して七月の三〇六名に比し外國からの復員者引揚者が四月の五二名に對し七月の二六三名といふ數字も最近の實狀をはつきり物語つてゐる、即ち引揚完了に依る增加と食事情の平市（都會地としての）の配給率の良さに依るものである

消費面では 二千名增

二十年度と比較

又之を每月の消費人口調査集計に見ると

▲十九年度八月――一般消費者二三、八七八人（五、一一八戸）、米作地主六七二人（一一二戸）、米作農家四、一七三人（六四八戸）、累計二八、七二二人（五、八七八戸）

▲二十年度八月――一般消費者二三、六三二人（五、三五三戸）、米作農家四、一七三人（六四八戸）、地主六七二人（一二二戸）、累計二八、四七七人（六、一一三戸）

▼二十一年八月――一般消費者二六、〇八〇人（五、七八八戸）、米作農家四、一五九人（七二二戸）、地主六四五人（一一〇戸）、累計三〇、八八四人（六、六一〇戸）

以上で二十一年度の人口が二十年度より二、二〇七名の增加、十九年度より二、一六二名の增加を示してゐる、二十年度の最低は五、六、七月の空襲時の疎開者に依るものでその割に戸數の多いのは空襲に依つて失はれた三分の一の戸數が住むに家なく六疊一間、四疊半一間に雜居して獨立の生計を營んで居る事を物語つてゐる

高價買入レ
衣類、金屬、書籍、骨董
平市南町平館隣り　中央會館

お買物は皆樣の
化粧品、同型洗劑、京人形
甘味料、小間物、各種雜貨
▽樂器部新設△
平四丁目　電二六八　やまよし

湯本電機
共同請負
湯本電機商工組合では愈々內容を完備して電機器具電燈內外線用材料も出來たので共同請負もすることになり各方面から期待されてゐる

開放

投書を歡迎す　要旨批判結構　紙上匿名可

魚類配給の公正化へ

▼…魚の配給に就いては屢々問題視されてゐる、これに對して配給所側からは飽迄公正を旨とする主旨を常に語つてゐる、然し果して公正であるであらう？自分は甚だ疑問視せざるを得ない

▲…何故に配給所の聲明に疑を抱くかといへば先づ鰹の配給だ既に二、三回に亘り配給されたが、區があるにも拘らず一方の區では僅かに一回といつたところもあるのである

▼…更らに盆前に或る區では鹽鮭すら配給されてゐるのに、他の區では盆といへ何も配給がない、そんなことで果して公正であるといへるであらう？甚だ疑問とせざるを得ないものがある

▼…又或る配給所では鰹でも何でも珍しいものは先づ配給所員が、配給開始前に生きよいところは奧に隱してしまつて所員で分配したり或は或る特定人のために別にして置いてやる

▼…左樣な事實はこれらの抗議に對して、頭から無いと否定するかも知れない、從來殆んど否定のしつゞけである、今回も亦否定するであらう、然し一丁目方面の某配給所での事實は如何に口で否認しても大衆の眼を蔽ふことは不可能事である

▼…私達は口での辯明は決して聽きたくない、たゞ實行で示して呉れゝばよいのである、が配給に食生活は依存せねばならぬ今日である、惡意に解釋せず、配給所幹部連の配給所並に所員の嚴重な監視を乞いたいと希ふ（一丁目二郎生）

生活と文化　潮流

芙美

信之さん、九月に入つたばかりだのに伊豫灘から吹いてくる風はひえびえとしてゐましたつけね。ハルミは默つて釣糸を垂れてゐたし、貴方は舟底で腕を枕に仰向けになつてゐた。自分で無理に連れ出しながら、一向私の話しに乘らないハルミに少し腹を立て丶私は貴方にばかり向つて饒舌を振つてゐた。Yが結婚した……愛人だつた。K子を捨て丶親の決めた娘と結婚したといふことに口を極めてYを非難する私を貴方は微苦笑して宥めるように言つた。

――社會といふものは自分ばかりの幸福で押通せる程、單純なものじゃないのさ、周圍の者達に、たくさん犧牲を拂はせて戀愛を成就させたところで周圍を不幸にすることは結局自分達も不幸になることとなんだものね――

の結婚にどんないきさつがあつたにしても、かりにもYの行動を是認するかのような口吻がひどく惜らしくて私は躍氣になつて愛情の神聖さを反駁した。十七、八の小娘の何と愛すべき氣焔でしたろう。や丶してから貴方は眼を閉ぢて獨言のように呟いた――

運命は從ふ者を潮に乘せ逆ふ者を曳いて行く……かそれ一體何のこと？

――あ〃商船テナシティ〃ね、それまで默つてゐたハルミが突然口をはさんだので私は思はず振り返つたがハルミは相變らず釣れもしない糸を下してゐた。だがその口許に何故か侘しげな薄い笑ひが漂つてゐた。その顏が、かつてないほど薄幸げに見えるのに私はぎくりした氣持になつて、それつきり口をツグんでしまつた。

小舟は豐豫海峽の潮流に乘つて豐後水道に流されんとしてゐた水道から太平洋に出た潮は、南と北とに分流する、その潮流に乘せられる自分の運命をその時ハルミは考へてゐたのだつたかも知れない。

秋が深まる頃貴方は南方に行くことになつたと言つて旅支度を始めてゐたハルミが一緒でないと聞いて貴方もYのような人間なのかと詰め寄つたが貴方は言葉を濁して煙草ばかり喫つてゐたし、ハルミは貴方以上に何も語ろうとしなかつた。

――誰が送つてなどやるものかだが貴方の乘つた船が太平洋を突き進んでいる頃、私はすでに一つの事實を知つた。ハルミはすでにその數ヶ月前から遠い地に嫁ぐことに決められてゐたといふ。私はその時初めて捨てたのは貴方ではなく、ハルミであつたことを感じたのだつた。ハルミはさえない顏色をしてゐてその瞳は以前よりも潤みを增してゐた私はハルミが如何に苦しみ、そして、その苦しみを踏み越えて來たかを知つて慰める言葉など一言も出なかつた。

幾めぐりかの年の流れるうちにハルミは林檎の花の咲く北の國で、つゝましく人妻となり、母となつてゐる。貴方は穩やかに頷いて微笑してくれるでせうその貴方にも、よき伴侶があるかもしれない。

私は貴方にもハルミにも言ひたいことが澤山ある。しかしお互ひがそれ〳〵の生活を築き上げそして過去といふヴェールがすべてのものを美しくばかりしてしまふものである以上、改めて何を言ふ必要があるだろう。やがて秋が來る。その頃私はふるさとに歸ります。ひとり海上に小舟を出せば、更に生々しきあの日の記憶が甦つてくるかもしれない。間斷なく流れる潮のなかにまざ〳〵と人生の姿を見出すことだろう。

廿二、八、一二

小名濱での合同俳句會

大野林火先生選

互選句

日水　峰松　宏泉
眉を吹く汐の香あまし夜光虫
瀧尻　加藤　霽水
花柘榴裂けて溝川や丶迅き
日水　鈴木　球麓子
カンナ昏れ雨落ちて來し地の匂ふ
古湊　森田　一舟
水瓢に土用の光り濃かりけり
古湊　高木　可水
大銀河住繼ぐ古家の灯を入れり
古湊　石井　芳江
あぢさゐに夕雨さそふ響あり
平　綿引　武門
いさかひの淋しさにあり蟬時雨

目迫秩父先生選

平　田口　光泉
草涼しタバコとマッチ置かれあり
古湊　西丸　泰夫
投げ釣りのや丶あつてひかる夜光虫
古湊　石井　芳江
海よりによしずばかりの家が建つ

眼鏡專門　玉屋
平市二丁目
視力試驗設備が有ります
各眼科醫指定

粘土瓦の
御用ご工事請負
營業案內
塗料　油脂　自動車
木工塗料
『特ニス』特約店
福島縣屋根工事株式會社
石城出張所
古川興業有限會社
平市南町四一

白花崗石（シロハナミカゲイシ）
板石各種
建築用　土木用
間知石　一五　一二　相當數アリ
右御注文ニ應ズ
田村郡瀧根町神俣驛前
白石事業部
連絡事務所
白石源一
電話瀧根局

藥のことなら……
キクので評判……
ダルマ薬局
小名濱町　電222番